

平成 26 年度
学校自己評価報告書

平成27年6月1日



I. 基本方針

建学の精神であるモラロジーに基づく道德教育を柱に、教科指導・進学指導の強化と部活動の充実、並びに入寮を希望する入学者数の増加を目指して、以下の諸項目を重点目標として諸施策を実施する。

II. 重点目標

1. 法人の中長期計画と整合した本校の中長期計画の具体的施策を策定し実行する。
2. 生徒数の安定確保と収支構造の改善を目指す。
 - (1) スクールバスを増便し、東濃地区並びに中濃地区の生徒の確保に努める。
 - (2) 寮生確保のため、寮費減免制度の拡充と広報部による戦略的な募集活動を展開する。
 - (3) 生徒数の増加と人件費の削減を図り、消費収支の改善を目指す。
3. 寮教育の充実と環境改善を行う。
 - (1) 中学・高校男子・女子寮の空調や給湯設備の電化、高校女子寮の個室化、中学・高校男子・女子寮の改修工事等を実施して、寮の居住環境の改善を図る。
 - (2) モラロジー教育に基づいた寮教育を一層進める。
 - (3) 寮での学習指導体制の一層の確立を図る。
4. 教科指導・進路指導の一層の充実を図る。
 - (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業内容の確立を図る。
 - (2) 選抜性の強い大学に挑戦できる授業、進学講座の内容を確立する（高等学校）。
 - (3) 電子黒板等の IT 機器を用いた効率的・効果的授業を開発する。
5. 部活動の環境整備と強化を行う。
 - (1) 全校生徒が生き活きと活動できる部活動の環境整備を図る。
 - (2) 強化指定部を支援し、全国大会出場を果たせる能力の高い生徒を募集する（高等学校）。
6. 教職員の資質向上を推進する。
 - (1) 教職員を対象とした様々な研修を充実させ、教職員の資質向上に努める。
 - (2) 次世代を担う教職員を確保し、資質育成に努める。

III. 中期計画の実行に関する事項

1. 人材の確保・育成
 - (1) 募集目標数の達成
 - (2) スクールバス便の充実
 - (3) 広報力の強化
2. 教育の充実
 - (1) 寮の収容定員の充足
 - (2) 寮指導体制の改革
 - (3) 中高一貫体制の構築
 - (4) グローバル人材の育成
 - (5) 特色ある学校行事の創設
3. 経営改革
 - (1) 帰属収支の改善

IV. 重点目標と評価

平成 26 年度も前年度と同様に、生徒の学習活動や部活動などにおいて一定の成果を収めることができた。特に学習面においては、授業時間や進学講座の時間の確保に努め、選抜性の強い大学に関してもある程度の進学実績を残すことができた。また、部活動においても、剣道部のインターハイ優勝をはじめ強化指定部を中心に成果を収めることができた。施設面については、全寮エアコン設置と高校女子寮の改修工事などを無事完了して、居住環境の改善を図ることができた。

ただし、重点目標の 1 つでもある生徒募集に関しては、依然として厳しい状況が続いているので、全国規模の広報活動をより一層展開していきたい。

収支の改善についても、生徒数の増加による収入増と人件費などの削減による支出減に資する能動的な活動を担保するように今後も努めていきたい。

所管部・担当	事業計画	評価
校長・教頭 事務部長	1. 法人の中長期計画と整合した本校の中長期計画の具体的施策を策定し実行する。	法人の中長期計画と整合した本校の中長期計画の具体的施策を策定し実行することについて、概ね、法人の中長期計画と整合した方向で事業を実施できた。
校長・教頭 事務部長	2. 生徒数の安定確保と収支構造の改善を目指す。 (1) スクールバスを増便し、東濃地区並びに中濃地区の生徒の確保に努める。 (2) 寮生確保のため、寮費減免制度の拡充と広報部による戦略的な募集活動を展開する。 (3) 生徒数の増加と人件費の削減を図り、消費収支の改善を目指す。	1) スクールバスの増便に関しては、可児御嵩路線を開通させ、東濃地区の 7 路線全線が完成した。 2) 寮生確保のための広報戦略については、まだ改善の余地があるため、シンクタンクの助言を踏まえた取り組みを促進する。 3) 少子化の影響等で生徒数の急激な増加は難しかったが、減免による効果が着実に顕在化してきている。
校長・教頭 事務部長	3. 寮教育の充実と環境改善を行う。 (1) 中学・高校男子・女子寮の空調や給湯設備の電化、高校女子寮の個室化、中学・高校男子・女子寮の改修工事等を実施して、寮の居住環境の改善を図る。 (2) モラロジー教育に基づいた寮教育を一層進める。 (3) 寮での学習指導体制の一層の確立を図る。	1) 高校女子寮の諸設備の改修を予定通り完了することができた。 2) モラロジー教育に基づいた教育プログラムの整備については、引き続き次年度も取り組んでいきたい。 3) 寮での学習指導体制の確立については、夜間巡回や学習会などの取り組みを行った。
校長・教頭 事務部長	4. 教科指導・進路指導の一層の充実を図る。 (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業内容の確立を図る。 (2) 選抜性の強い大学に挑戦できる授業、進学講座の内容を確立する（高等学校）。 (3) 電子黒板等の IT 機器を用いた効率的・効果的授業を開発する。	1) 新しい学習指導要領の趣旨を踏まえた授業内容の確立が図れるように、それぞれの教科で取り組んだ。 2) 選抜性の強い大学に挑戦できる授業、進学講座の内容改善に取り組んだ。 3) 電子黒板等の IT 機器を用いた効率的・効果的授業ができるように、研究授業などを行った。
校長・教頭 事務部長	5. 部活動の環境整備と強化を行う。 (1) 全校生徒が生き活きと活動できる部活動	1) 全校生徒が生き活きと活動ができる部活動の環境整備に努めた。

	<p>の環境整備を図る。</p> <p>(2) 強化指定部を支援し、全国大会出場を果たせる能力の高い生徒を募集する（高等学校）。</p>	<p>2) 剣道部を中心に多くの部活動で全国大会・東海大会進出を果たすことができた。</p>
<p>校長・教頭</p> <p>事務部長</p>	<p>6. 教職員の資質向上を推進する。</p> <p>(1) 教職員を対象とした様々な研修を充実させ、教職員の資質向上に努める。</p> <p>(2) 次世代を担う教職員を確保し、資質育成に努める。</p>	<p>1) 教職員を対象とした様々な研修を充実させ、教職員の資質向上に努めた。</p> <p>2) 理数系の教員は全国的にも不足しているため、募集・選考・採用に困難さを感じたが、適正人数を確保することができた。</p>

V. 主な事業計画と評価

所管部	事業計画	評価
教科指導部	<p>1) 移行期間に入った新学習指導要領に対応するため、各教科で新学習指導要領とそれに準拠した新しい教科書の読み合わせを行い、それを活かした授業づくりを計画する。</p> <p>2) 大学入試や実力試験の成果が上がるよう、研究授業や研修などを通じて、生徒の学力がづく授業づくりを計画・実践し、その効果を検証していく。</p>	<p>1) 新課程完全実施を意識した授業展開を計画的に実施できた教科が多くみられた。移行期の難しさを感じつつも、センター試験に対応する工夫ができていた教科も多くあった。高校では、同一テスト内での習熟度の差を、追加問題などで上位層に一層負荷をかける工夫をすることができた教科もあった。中学では先取りを意識して、高校分野に踏み込んで授業を展開したところもあった。</p> <p>2) 公開授業と授業テーマを持った研究授業をベースにして、電子黒板やタブレットを活用した近未来の授業を想定した展開の研究や、実力のつく授業づくりについて各教科で積極的に研修に努めた。難関国公立大の二次試験に対応できる力を養うために、難易度の高い問題の対策を各教科で取り組むことができた。</p>
担任部	<p>1) 生徒の向上心と学習意欲を育てるホームルーム活動を推進するため、各学年のホームルーム年間計画を学年主任会で俯瞰的に見直し、各学年に適したホームルームの内容であるかどうかを検証しながら、より計画的で効果的なものに改善していく。</p> <p>2) 個々の生徒の状況の的確な把握と迅速な対応を心がけるために、デイリーライフの活用（中学校）、面接週間やクラス通信の充実、週報を活用した生徒指導連絡会での報告の徹底とチューター等との連携の強化を図る。また、学年主任のリーダーシップの下、各学年担当者会を開催して進路指導・生徒指導の情報収集と発信・共有に努める。</p>	<p>1) 1年生から6年生までのホームルーム年間計画が整備され、学年主任会で確認・調整がスムーズにできるようになった。各学年で行っている授業担当者会も年間2~3回、全学年で実施することができ、会議の重心も「情報の収集」から「進路指導・生徒指導上の情報発信と共有」へと着実に移行してきたように思われる。</p> <p>2) 生徒指導連絡会における情報共有が進み、部活動・寮生活・健康面・食事指導・生徒指導など多岐にわたって有機的な情報交換や意見集約・方針確認の場となってきた。また、中学校のデイリーライフに限定されていた生徒とのコミュニケーション・ツールも、クラスや期間限定ではあるが高校にも広がりがみられ</p>

		<p>ていて、積極的なホームルーム運営が学校生活の活性化につながっているように思われる。</p>
チューター部	<p>1) モラロジーに基づく寮教育の推進のため、チューターがお互いに他寮の夕礼を見学し、教育力の向上と意思統一を図り、日常生活から寮生の心の教育の充実に努める。</p> <p>2) 個々の生徒や保護者への迅速で適切な指導と対応を図るために、寮役員・部屋長との連絡会や個々の生徒との定期的面接を行う。また、寮内のモラロジー系の活動の一環として、寮生全員が自分の保護者に対して、週に1度は必ずハガキを出して近況報告をするように奨励をする。</p> <p>3) 寮での学習習慣の一層の確立を図るために、学習係活動を通じて寮での学習時間増加計画を実行する。また、教員による夜間学習を行う。</p> <p>4) 高校女子寮において、個室化に伴う学習体制や環境整備について、生徒との情報交換を密にししながら方策を整えていく。</p> <p>5) 寮のエアコン化に対し、その使用についての考え方やルールを整備するとともに、健康指導を充実させる。</p>	<p>1) 毎朝チューター間で打ち合わせを行い、連携を密にした。また、寮生活のしおりを教育的な観点から見直すとともに、チューター業務マニュアルの再点検を行った。今後も教育力の向上に資するためチューターの資質向上に努める。</p> <p>2) 寮役員研修・学年別研修は順調に行うことができた。寮役員、部屋長、各係の育成に今後も努めていきたい。</p> <p>3) 環境整備については、個人差はあるものの全般的に向上した。来年度も見回りや点検を継続する。特に高校寮では生徒の自主的な活動を援助したい。</p> <p>4) 保護者へのハガキは、ほぼ毎週送ることができた。チューターも言葉を添えているので保護者の安心満足度も向上している。大変良いことであるので来年度も継続する。</p> <p>5) テスト週間中の教員による夜間学習を行った。来年度も継続する。学習係活動での学習時間調査も継続的に行ってきた結果、学習時間の増加に繋がってきた。中学寮では自習時間中、生徒を一か所に集めてチューターの監督による学習指導を行った。</p> <p>6) 部活寮においては、技能の高い生徒を確保し、効果的な育成指導ができるようになってきた。テニス部は、新たに専用の部活寮を設置し、技能向上の基盤を整備した。剣道部は、担当教員の指導の下、画期的な成果を収めた。寮生活全般において、大きな問題もなく円滑に運営できた。</p> <p>7) 女子寮の改修（個室化）に伴い、新しい生活のルール作りを進めた。また、全寮各室にエアコンを設置することに対しての使用ルールを整備した。</p>
教務部	<p>1) 新学習指導要領に基づく中高一貫教育課程を確立するために、新学習指導要領の理解と実践に役立つ情報提供や研修への参加を一</p>	<p>1) 中部地区私学教育研修会（10/2,3）に本校から12名の教員が出席し、学校経営、国際、生徒指導、教科課程、進路、各教科（5教科）の各部会で研修に参加した。いずれの部会も新</p>

	<p>層推進する。</p> <p>2) 国際交流活動の一層の充実を図るために、国際交流系の教員の研修を推進し、国際交流スタッフを育成する。また、3年生と5年生の研修旅行の円滑な実施をサポートする。</p>	<p>学習指導要領の理解と実践に役立つ有益な情報が得られ、参加した教員の意識を高め、本校における今後の教育実践に対する多くのヒントを持ち帰ることができた。</p> <p>2) 多治見地区の教務主任会議に定期的に参加し、近隣各校の教育課程作成や授業実践について情報交換を行った。</p> <p>3) 今年度から始まった5年生の台湾修学旅行に向けて、訪問校である及人高級中学校の来校(6/6,7)受入れと交流および姉妹校提携に関して、国際交流係を中心にサポートした。また、修学旅行実施までの事前研修にも助力をした。</p> <p>4) 3年生のニュージーランド研修の事前準備、および来年度から始まるオーストラリア研修の企画について、国際交流係を中心にサポートした。また、国際交流系の若手メンバーに、これらの業務を積極的に分担することによって、国際交流スタッフとしての力量を高めてもらうことに努めた。</p>
<p>進路指導部</p>	<p>1) 国公立大学や難関私立大学の合格者を多数輩出するため、大学入試センター試験後の2次試験対策に重点を移して、記述力養成に努める。また、指導教員の実力を高めるため、教育研究セミナー受講の見直しや大学入試問題対策への取り組みを強化する。</p> <p>2) 各学年に応じた有益な進路情報を定期的に発信する。特に進学クラスの生徒に対して、大学情報や多様な受験方式などを紹介して、より高いレベルに挑戦する意欲を喚起する。</p> <p>3) 中学生向けの進路学習や大学の模擬授業などを積極的に取り入れ、一貫生の進路意識を高める。</p>	<p>1) 大学入試センター試験後の国公立大学の2次試験や私立大学の一般試験対策として用途に合わせて14種類の「特別講義」を開講した。英作文や小論文に対しては個別指導を行った。また、教育研究セミナーには25人が受講し受験指導の実力を磨いた。</p> <p>2) 学年別に「進路便り」を発行し、学習意欲の喚起に努めた。また、「センター試験特集号」を発行して、各科目担当者による分析と対策を4・5年生全員に配布した。</p> <p>3) 麗澤大学による「大学出張講義」と「小論文指導」を計7回実施し、中学生も多数参加した。また、2・3年生を対象とした名古屋大学教授による「プレミアム講座」を開講した。</p> <p>4) 平成26年度の確定進路は次のとおりであった。</p>

		<p>◎平成 26 年度卒業生（165 人）の確定進路状況</p> <p><確定進路></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国公立大学</td> <td>38</td> <td>23.0%</td> </tr> <tr> <td>私立大学</td> <td>102</td> <td>61.8%</td> </tr> <tr> <td>国公立短期大学</td> <td>6</td> <td>3.6%</td> </tr> <tr> <td>専修・専門学校</td> <td>11</td> <td>6.7%</td> </tr> <tr> <td>就職</td> <td>1</td> <td>0.6%</td> </tr> <tr> <td>留学</td> <td>0</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>その他（予備校等）</td> <td>5</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td>未定</td> <td>2</td> <td>1.2%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>165</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*国公立系大学合格者数 40 人（全員現役生）</p> <p>◎主な合格大学（ ）の数字は過年度生 内数</p> <p>【国公立大学】</p> <p>京都大 2 大阪大 1 北海道大 1 東北大 1 高知大〔医・医〕 1 筑波大 1 弘前大 1 横浜国立大 2 信州大 2 山梨大 1 都留文科大 1 岐阜大 1 岐阜県立看護大 1 静岡大 1 静岡県立大 1 愛知県立大 2 名古屋市立大 1 金沢大 1 石川県立大 1 福井大 3 福井県立大 1 滋賀大 1 滋賀県立大 1 大阪教育大 1 大阪府立大 2 神戸大 1 奈良女子大 1 奈良県立大 1 岡山大 1 広島大 1 北九州市立大 1 鹿屋体育大 1 防衛大学校 1</p> <p>【私立大学】</p> <p>麗澤大 3 慶応大 1（1）早稲田大 2（1）明治大 3 東京理大 7（2）中央大 2 立教大 1 法政大 4 北里大 2 駒沢大 2 専修大 1 玉川大 1 東京農大 3 明治学院大 1 東海大 1 岐阜聖徳学園大 1 南山大 1 6 名城大 1 3 愛知淑徳大 1 5 中京大 1 3 愛知大 7 *愛知医科大 5 藤田保健衛生大 7 金城学院大 5 名古屋外大 5 椋山女学園大 8 同志社大 7 同志社女子大 1 立命館大 1 1（1）京都外大 1 龍谷大 2 京都女子大 1、関西大 6 近畿大 2 天理大 1 関西学院大 4 など *愛知医科大 5 のうち医学部医学科 1</p>		人数	割合	国公立大学	38	23.0%	私立大学	102	61.8%	国公立短期大学	6	3.6%	専修・専門学校	11	6.7%	就職	1	0.6%	留学	0	0%	その他（予備校等）	5	3.0%	未定	2	1.2%	合計	165	
	人数	割合																														
国公立大学	38	23.0%																														
私立大学	102	61.8%																														
国公立短期大学	6	3.6%																														
専修・専門学校	11	6.7%																														
就職	1	0.6%																														
留学	0	0%																														
その他（予備校等）	5	3.0%																														
未定	2	1.2%																														
合計	165																															
<p>生徒指導部</p>	<p>1) 教員間での生徒情報の共有と問題行動への適切で迅速な対応を図るために、生徒情報を全教員に速やかに周知し共有できる体制づくりを推進する。また、問題行動に対し、チームできめ細かい共通指導ができる体制をつくる。</p>	<p>1) 毎週一回各部署の責任者が集まり、集団や個人の報告会を開いた。その情報をまとめて全教員で共有した。また、その情報をもとに共通指導ができるよう努めた。</p> <p>2) 交通安全意識の向上を目指し、担任部と連携し、自動車学校に依頼して1年生と4年生に対して交通安全教室を実施した。</p>																														

	<p>2) 生徒や教職員の交通安全意識の向上を図るために、担任部と連携し、外部講師による交通安全教室の実施を推進する。</p> <p>3) 校舎内外、キャンパス全体の環境美化を推進するため、営繕美化係が掃除時間に巡回し、掃除状況の確認をしながら掃除の仕方全般について相談やアドバイスを行う。また、生徒会美化委員会と連携し、全教職員と全生徒による一斉掃除を徹底する。</p> <p>4) 広く問題となっている携帯電話等の取扱いについて、担任部と協力して、外部講師による使い方講座などを計画し推進していく。</p>	<p>3) 営繕美化係教員が掃除時間に巡回し掃除状況の確認をした。生徒会美化委員会は、掃除状況のチェックや手作り掃除道具の作成など積極的に取り組んだ。</p> <p>4) 情報モラルが大きな課題となっており、担任部と連携して、中学生3学年と4年生を対象に、外部講師による情報モラル教室を2回実施した。</p>
<p>特活指導部</p>	<p>1) 毎月の代議員会や生徒会委員会の活動報告などを、各クラスの代議員や委員長がクラスを通じて生徒全体に周知できるように指導をする。また、生徒会活動を盛んにするために、年2回の生徒総会、生徒会掲示板を活用していく。</p> <p>2) 中学・高校ともに、学期ごとに生徒会行事が実施できるように計画を立てる。</p> <p>3) 中学・高校ともに部活動の活動内容や結果を広報する掲示スペースの利用を呼びかけ、全校生徒に活動内容を分かりやすくする努力を続けていく。</p> <p>4) 特別強化指定部、強化指定部の支援体制を一層充実させ、競技力の高い生徒が集まるような環境づくりに向けて、物心両面のサポートを行う。</p>	<p>1) 生徒会活動では、初めて土岐川流域清掃のボランティアに参加するなど地域に貢献することができたので、今後も機会をとらえて積極的に参加していきたい。3学期の生徒会行事も怪我なく実施することができた。</p> <p>2) 各部活動とも熱心に活動することができた。中学野球部や水泳部の中学生女子の活躍が素晴らしかった。囲碁将棋部、自然科学部も部員数は少ないが実績を上げることができた。</p> <p>3) 剣道部女子の全国選抜大会二連覇とインターハイ初優勝に尽きる1年であった。男子剣道部もインターハイ出場を果たした。高校男子テニス部、高校陸上部男子も東海総体、東海選抜出場を果たした。</p> <p>4) 平成26年度の部活動の成果は以下のとおりであった。</p> <p>◎中学校（県大会8位以上のみ表示）</p> <p>■全国大会 テニス部 男子団体（全国選抜中学校テニス大会）</p> <p>東海大会 水泳部 女子個人（中体連東海大会6位）</p> <p>テニス部 男子団体 （東海地区中学新人テニス大会5位全国へ）</p> <p>男子個人 （東海中日ジュニアテニス選手権大会）</p> <p>男子個人</p>

		<p>(東海毎日ジュニアテニス選手権大会) 女子団体 (東海地区中学新人テニス大会)</p> <p>■県大会 8 位以上 ゴルフ部 男子個人 (中部ジュニアゴルフ選手権) 陸上部 男子個人 (中学新人競技大会 7 位) 水泳部 女子個人 (中体連県大会 3～7 位 8 種目) 女子個人 (岐阜県室内スプリント優勝) 英語弁論 女子個人 (高円宮杯中学校英語弁論大会)</p> <p>◎高等学校 (県大会 3 位以上のみ表示)</p> <p>■全国大会 剣道部 男子団体 (全国高校総合体育大会) 女子団体 (全国高校総合体育大会 優勝) 男子個人 (全国高校総合体育大会) 女子個人 (全国高校総合体育大会 3 位) 男子団体 (国民総合体育大会ベスト 8 位) 女子団体 (国民総合体育大会ベスト 8 位) 男子団体 (全国高校選抜大会 準優勝) 女子団体 (全国高校選抜大会 3 位) テニス部 男子個人 (国民体育大会) 自然科学部 男子個人 (全国開き書き甲子園) 囲碁将棋部 女子個人 (全国高校将棋新人大会)</p> <p>■東海大会 剣道部 男子団体 (東海高校総合体育大会 準優勝) 女子団体 (東海高校総合体育大会 優勝) 男子個人 (東海高校総合体育大会 5 位) 男子個人 (東海高校総合体育大会 5 位) 女子個人 (東海高校総合体育大会 優勝) 女子個人 (東海高校総合体育大会 2 位) 女子個人 (東海高校総合体育大会 3 位) 男子団体 (東海高校選抜大会 優勝) 女子団体 (東海高校選抜大会 優勝)</p> <p>テニス部 男子団体 (東海高校総合体育大会) 男子シングルス (東海高校総合体育大会) 男子ダブルス (東海高校総合体育大会) 男子シングルス (東海中日ジュニア選手権大会) 男子ダブルス (東海中日ジュニア選手権大会) 男子団体 (全国選抜東海地区大会 8 位)</p>
--	--	--

		<p>男子シングルス（東海毎日ジュニア選手権大会）</p> <p>男子ダブルス（東海毎日ジュニア選手権大会）</p> <p>陸上部</p> <p>男子個人（東海高校総合体育大会 8 位）</p> <p>男子個人（東海陸上競技選手権）</p> <p>男子個人（東海高校新人陸上大会）</p> <p>女子個人（東海高校新人陸上大会）</p> <p>水泳部</p> <p>男子個人（東海高校総合体育大会）</p> <p>男子個人（東海高校新人水泳大会）</p> <p>弓道部</p> <p>男子団体（東海高校総合体育大会）</p> <p>男子個人（東海高校総合体育大会）</p> <p>■県大会 3 位以上</p> <p>剣道部男子、剣道部女子、テニス部男子、サッカー一部、陸上部男子、弓道部男子 陸上部女子、水泳部男子、テニス部女子、太鼓部、吹奏楽部</p>
自学センター	<p>1) 新しい教務システムの運用を軌道に乗せるため、他部署と連携を取りながら利用マニュアルなどの整備を進める。</p> <p>2) 本年度実施する寮ネットワーク機器の更新が滞りなく行えるように留意する。</p> <p>3) 電子黒板などの学習効果を高める機器や学習システムの積極的な導入や活用を検討し、生徒の学力や能力の育成のためにより一層の支援を行う。</p> <p>4) 生徒や教職員の貸出冊数が順調に伸びてきた図書整備においては、書籍の種類や室内環境のより一層の充実を目指し、高い志や幅広い知識を持った生徒の育成に繋がる活動を継続していく。また、公共物としての書籍に対する意識の向上を促す。</p>	<p>1) 寮や施設課・事務課等のネットワーク機器の更新を行い、これまでも増して安定した通信環境を整備することができた。特に、高校女子寮では寮の改修と連携して行ったので各階・各部屋で利用することが可能となった。</p> <p>2) 積極的に電子黒板を利用した授業や進学講座が行われるなど、意識的に視聴覚機器を利用し、効果的に授業に活用するための取り組みが行われるようになってきた。</p> <p>3) 景観を損なわない施工方法で、自学センター内図書スペースの書架の耐震施工を行った。書架によっては本を合わせて重量が 100kg を越えるものもあるが、大きな揺れに耐え、生徒の避難を確保できるようになった。</p> <p>4) 常日頃より自学センター内図書スペースや自習スペースの環境整備に努めるとともに、新入生に対して図書利用オリエンテーションを行い、図書委員や教員によるお勧め本を紹介するコーナーを設けるなど、利用の数と質を高めることができた。8 月には本校の司書が愛知県学校図書館研究会高等学校部会司書部夏季研究会の分科会の講師として招かれ、日頃の取り組みを発表し高い評価を得た。</p>
研究部	<p>1) 寮体験発表会、人権作文発表会、ニューモラル学習などを企画運営し、これらの学習を通して生徒にじっくり考える機会を持たせ人</p>	<p>1) 学習内容をさらに充実させることができた。特にニューモラル学習については、ワークシートを複数提供して担任に選択してもらう形式にしたことによって、担任がそれぞれ創意</p>

	<p>間的な成長を促す。</p> <p>2) 教職員研修の計画運営において、本校の重点目標に即した外部講師を招聘し、教職員の資質の向上を図る。また、平成 25 年度から実施した教職員対象の年次研修においては、岐阜県総合教育センターの研修に教員を派遣し、資質の向上を促す。</p>	<p>工夫をしてより深い内容の学習をすることができた。人権学習については、「人権作文コンテスト」に応募して複数の生徒が表彰を受け、また本校の取り組みが外部団体から評価されて表彰を受けるなどの成果を収めた。</p> <p>2) 教職員研修会では本校のニーズに合わせた外部講師を招聘し、教職員のスキルアップを図ることができた。また、県教育センターの講習に教員を派遣して、資質の向上を促すことができた。初任者研修、初担任研修においては内容を精査し、より円滑な業務の推進をサポートすることができた。また、生徒体験発表集や教職員対象の研究紀要も教職員に働きかけて原稿を集めて製本・発行し、生徒や教職員の間で相互啓発をすることができた。</p>
広報部	<p>1) パンフレットやポスターをはじめとする広告媒体を見直し、より効果的な資料の作成を行う。</p> <p>2) 寮生を増やすために、寮教育の魅力・利点を整理して、全国の卒業生や公益財団法人モロジー研究所の維持員を対象に広く情報を発信する。</p> <p>3) きめの細かい募集行動を起こすとともに、学校見学会の方法を見直し、新しいプレゼンテーション資料を作成する。</p>	<p>1) 学校の広報用パンフレットは部分改定に止めた。中学のパンフレットは広報戦略に基づく効果的な配布場所を選定し、印刷部数を全て配布することができた。</p> <p>2) 寮生確保のため、後援組織である麗澤会を通じて、学校ニュース等の情報誌を適齢卒業生に送付した。また、「寮のある学校説明会」、「地方責任者研修会」などの場で、寮生活を通じた人間教育の魅力をアピールした。</p> <p>3) 可児市に通学バスが通ったこともあり、その地区へのアプローチを行った。学校見学会には体験授業などを導入し、中身のリニューアルができた。次年度に向けて時期と回数、方法を見直した。</p>

VI. 中期計画と評価

所管部	事業計画	評価
校長・教頭 事務部長	<p>1. 人材の確保・育成</p> <p>(1) 募集目標数の達成</p> <p>(2) スクールバス便の充実</p> <p>(3) 広報力の強化</p>	<p>1) 募集目標数の達成：平成 27 年 4 月時点で 720 人(中学生 240 人、高校生 480 人)の生徒数達成を目標としたが、高校生の入学者数が振るわず、目標より 9 名の減となったが、生徒数を僅かながら増やすことはできた。</p> <p>2) スクールバス便の充実：一昨年度に続いて新たな路線(可児・御嵩路線)を開通し、7 路線の整備を完了した。</p> <p>3) 広報力の強化：寮生の募集については、麗澤</p>

		<p>会やモラロジー研究所の協力のもとで、会員・地方責任者等への広報活動に努めたが、今後は寮生の適正人数確保のために、モラロジー研究所との連携を一層強化したい。</p>
<p>校長・教頭 事務部長</p>	<p>2. 教育の充実</p> <p>(1) 寮の収容定員の充足</p> <p>(2) 寮指導体制の改革</p> <p>(3) 中高一貫体制の構築</p> <p>(4) グローバル人材の育成</p> <p>(5) 特色ある学校行事の創設</p>	<p>1) 寮の収容定員の充足：平成 29 年度目標の 430 人（中学生 110 人、高校生 320 人）の確保に向けて全国的な広報活動を行ってきたが、26 年度末時点では 400 人を僅かに下回る結果となっているので（中学生 101 人、高校生 292 人）、より一層の取り組みが急がれる。</p> <p>2) 寮指導体制の改革：寮を担当するチューターの勤務体制の改善について、寮生の指導・教育力の低下を招くことなく実現させるための体制を検討した。</p> <p>3) 中高一貫体制の構築：学力の向上と進学実績の向上を目指して、中学生を対象に英語や数学などの教科の先取り学習と習熟度学習を行った。</p> <p>4) グローバル人材の育成：平成 26 年 11 月に 5 年生全員を対象とした台湾修学旅行を実施して多くの成果を上げることができた。また、中学 3 年生のニュージーランド研修についても多くの参加（61 人中 39 人参加）があり、無事に終えることができた。</p> <p>5) 特色ある学校行事の創設：プロジェクト委員会による会議を継続的に行って学校行事等の見直しに取り組んできた。中学生の総合学習の時間における「日本文化体験」学習プログラムについては、27 年度から実施することができるように準備を完了した。</p>

Ⅶ. 学校評価アンケート調査集計結果

本校ホームページ公開資料参照

以 上